

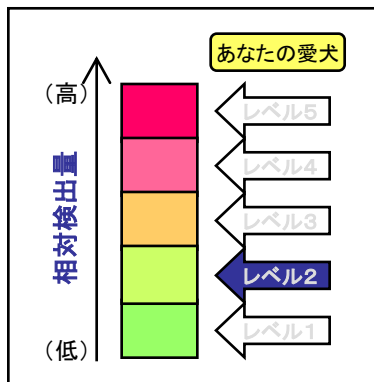
「ピーチェック！」結果報告書



佐藤 マロン ちゃん (6歳)

採尿日: 2008年 10 月 4 日

アルデヒド検出量



尿中アルデヒド測定値 (クレアチニン補正) から標準偏差を取得し、スタンダードスコアに基づくレベル分けをしています。全体のうち、各レベルは以下の割合を占めています。

レベル1: 16%
レベル2: 34%
レベル3: 34%
レベル4: 14%
レベル5: 2%

あなたの愛犬の健康度



項目	レベル
ストレス	2

この検査では、体内の酸化ストレスが高まると尿中に排出されてくるマーカーとして知られる「アルデヒド」という化学物質の量を測定しています。

ストレスは短時間でも急激に高まる場合がありますが、継続的にストレスマーカーが検出される場合や高い値を示した場合には、疾患との関連も疑われますので注意が必要です。

愛犬にストレスを与えないために

- ・食べ物は体内の酸化ストレスに敏感に影響します。食事の素材にも気を配りましょう。
- ・ストレス解消には適度な運動が必要です。お散歩が不足していることはありませんか？
- ・スキンシップはうまく行っていますか？ワンちゃんの気持ちを理解する努力も忘れずに。
- ・嫌がることは避けましょう。何かを恐がったり、怯えたりすることはありませんか？
- ・住環境を再確認。騒音や強い光などでワンちゃんが落ち着かないことはありませんか？

項目	今回の結果	参考基準値	項目説明	判定
尿pH	8.0	5.5-7.0	尿の酸性度を示す値です。疾患に関連して変動し、尿石症にも関係する指標です。	B
尿タンパク	(-)	(-) - (++)	腎臓の機能が低下すると検出されるようになります。尿の通り道の炎症でも検出されます。	A
尿潜血	(-)	(-)	腎臓や膀胱など、尿の通り道の障害を検出します。尿石症等では高値となります。	A
比重	1.020	1.015-1.045	腎臓で尿を濃縮する能力を反映します。腎臓病や糖尿病を含む重要な疾患の指標になります。	A
尿糖	(-)	(-)	糖尿病の重要な指標になります。大量に糖分を摂った場合にも一時的に上昇します。	A
ケトン体	(-)	(-)	メタボ状態の指標となります。脂肪の分解物が代謝されるとケトン体として尿中に排出されます。	A

(判定基準) A: 良好です、B: やや基準値から外れます、C: 疾患リスクが高まっています、D: 疾患が疑われます

尿pHが高い値を示したためにB判定となっています。尿pHが高くなると、尿石症のリスクが高まってくるのが知られています。

食事や運動に気をつけて尿pHを基準値に近づけるようにしましょう。

糖尿病を含むその他の疾患については、今回の検査で異常は見つかりませんでした。

これからも、愛犬の健康に気をつけて定期的な検査を心がけましょう。